

平安時代に関する資料

二ノ一、百鍊抄

出典 百鍊抄（国史大系編集会、吉川弘文堂）

解説 花山院（九六九～一〇〇八年）が天皇を退位した後の永延元年（九八七年）に笠置寺に参詣した記録である。この記録以後貴顕の笠置寺参詣の記事が増えてくる。

百鍊抄は公家社会の動静を編年史風に記述したもの。龜山天皇（一二五九から一二七四年）に成立したものと推定されている。

なお「百鍊抄」にいう「院」を花山院の叔父である円融法皇（九五九～九九一年）とする説（竹居明男「笠置寺編年史料」）もあるが、出家の動機、その後の仏道修行、恵那の笠置山命名などからみて、笠置寺参詣を花山院とみる。「日本紀略」の同年十月二十六日の記事に「円融寺法皇南京に修行し、諸寺を巡礼す」とあるので紛らわしいが、「百鍊抄」の前後の記事に円融院の行動を示す記事については「円融院」と明記されているので、やはりここに「院」と記されているのは花山院とみる。

原文

永延元年（九八七年）十月十七日の条

十七日。院参詣長谷寺。笠置寺。七大寺^一。

読み下し文

十七日。院、長谷寺、笠置寺、七大寺に参詣す。